

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム はつらつ
(ユニット名)	はつらつ 2F
所在地 (県・市町村名)	三重県 津市 芸濃町椋本5481-2
記入者名 (管理者)	坂元 美恵子 (峯田 葉子)
記入日	平成21年 2月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(あなたの今まで通りの生活を大切にし、ますます豊かな時を重ねられます様、(はつらつ)と(安心)した暮らしを地域と共に応援します。)を全職員共通の理念として、介護に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室に(はつらつの理念)を掲示し、毎日の朝の申し送り時に職員が声に出して読み、理念の実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	外部からの訪問に対しても、玄関に理念を明示し、誰の目にもとまるようにしている。	○ 明示だけでなく、面会時には説明、理解を求めるはたらきかけをしていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周辺を散歩しながら、近隣の方達と挨拶や会話をもったりしている。	○ 挨拶を交わすことから始まり、気軽に話ができるようになり、近くの方には立ち寄ってもらえるようになってきている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事が活発でなく、はつらつの施設行事に参加してもらうようはたらきかけ、参加回数が増えてきている。	○ 地域の民生委員も、時折立ち寄ってくださり交流が出来はじめている。しかしまだ一部の方のみなので、もっと広い範囲で立ち寄っていただけるよう声かけしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアなどの慰問をうける際に、地域高齢者への呼びかけを考えたが、施設のフロアなどでは十分なスペースが確保できず、難しかった。	○	充分な広さのある地域の集会場などをかしてもらい、地域の方々の参加を呼びかけ、一緒に行事を行っていただけるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を十分に理解するまではいかないが、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	外部評価を実施する意義を全職員が理解できるように勉強していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数は少ないが、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	定期的に運営会議を行い、参加者も増えるようはたらきかけ、幅広い意見をきくことで一層のサービス向上に取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との連絡調整、会議の開催日などの機会の確保が難しい現状である。	○	市町村窓口への連絡や訪問などの機会を増やすよう取り組み、市町村担当者と共にサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の入居者に必要な方はいない。	○	今後必要な方の利用の可能性は十分に考えられる為、研修会への参加や、情報収集など行い勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ機会は今では持っていないが、職員同士で虐待が見過ごされることが無いように常に話し合い、注意を払って、防止に努めている。	○	ドアの鍵をかけずに開放したいが、危険防止の面から考慮を重ね、鍵をかけるという判断に至っている。鍵を閉めずに開放できるようになるにはどうしたらいいかという課題に常に解決できるよう取り組んでいきたい。また外出、外泊時など利用者に対する家族の対応にも注意を払っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族等と納得行くまで話し合いを行い、疑問に答え、不安を最小限にとどめるよう説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>入居前に職員全員が新しい利用者を理解できるよう、くわしい基本情報シートを作成し、入居者が安心できるケアができるよう努めている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも利用者が意見や不満、苦情を言える雰囲気を作り、職員は利用者の気持ちを引き出せるよう努力し、問題があれば職員は話し合いを行い、より良い解決の対応を検討している。</p>	<p>○</p> <p>認知症の方で、自分の思いを上手く表現できない方の訴えを引き出すことへの努力、工夫を続けていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時を利用し、此処の状況を把握している。緊急時は電話を利用し報告している。全体的な連絡事項、状況報告は、施設で刊行しているはつらつ通信を郵送し、活動の内容などを知らせている。</p>	<p>○</p> <p>職員の異動は細かく報告していない。必要に応じて報告することとしている。はつらつ通信にて新入社員や退職者の報告をもっとしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接伝えていただいたり、伝えにくい時は、紙に書いて意見箱に入れてもらうよう玄関に設置している。意見は常に運営に反映させ、早急に対応している。</p>	<p>○</p> <p>意見箱の利用をもっと呼びかけたい。家族会を定期的に開催し、より気軽に参加できる雰囲気作りに努め、より参加者が増えるよう努力していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に行うカンファレンスについて意見を聞く機会を設け、問題や提案等を検討し、反映させている。カンファレンス以外でも話し合いを持つ機会を設け、意見や提案を反映させている。</p>	<p>○</p> <p>職員の意見、提案を受け、すぐに解答できることはその場で対応し、話し合いが必要な内容の場合は職員会議の議題にし、反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合い、無理のない勤務調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>施設の行事など、通常よりも業務が多くなる場合は、日中の人員を増やし、混乱がないように対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>給与などの待遇面を少しでも良くし、職員の離職を防ぐよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>全職員が常に利用者やその家族に対して、信頼関係が得られるように努力し、利用者にあたえる混乱や不安を防ぐよう取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必須の研修を受けることしか出来ていない現状である。	○	研修を受けたいという向上心が各自芽生えるよう働きかけていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会合研修に参加する中で、他施設との交流を深め、意見交換の場としている。他のグループホームからの見学希望を受け入れ、意見交換を行った。	○	他のグループホームへ見学、研修に行かせてもらったり、他のグループホームの方に見学に来てもらい、意見交換を通じてサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員の相談事に親切かつ速やかに応じ、職員のストレスを軽減するよう努めている。	○	職員間での親睦会の機会を多く持てるよう検討する。また自分から相談できない職員へも、その人が抱えている問題を把握、解決できるよう努力し、改善に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、職員が個々の努力や実情、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	○	各自が向上心を持って働いていける環境を作るにはどうすればいいか、話し合いながら取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係作りと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人から、本人のニーズを正確に聞きだすことはとても難しく、かなりの面接技法が必要と思われる。	○	入居前に本人が見学し、本人の意思で入居を決める事例は少ない。体験入居という形で一時的に入居をしてもらったり、利用者本人との信頼関係作りに重点を置き取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていること、不安の解消に役立つよう話しをよく聞き、個々のニーズに合ったサービスにつながるように努力している。	○	家族が安心し、納得してから利用者が入居を決定できるよう話し合いをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、話し合いを行い本人や家族が必要としている支援を見極め、施設見学していただき、居住環境やサービス内容を理解していただけるよう対応している。	○	現状で本人に最も適しているサービスは何かを分析し、紹介や説明ができるようサービスのネットワークを広げる努力をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談し、本人が安心できる生活が継続可能か、一時的な体験入所をしてから結論を出していただく方法も実施している。	○	利用者本人が納得しているかどうかの判断は非常に難しく、家族に満足していただけるように努力することにとどまっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に過ごしながらコミュニケーションをとり、利用者の過去の人生経験から様々なことを学んだり、必要な援助を行ったり、お互いに支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には出来る限り会話の機会を持ち、信頼関係を築き上げ、一緒に利用者を支えていっており、家族自身の相談もうけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	初期面会時に本人と家族の関係の理解に努め、入居後も良い関係が保てるよう日ごろの生活状態を面会時に伝えたり、はつらつ通信で伝えている。	○	家族の相談事にも傾聴し、話し合いを行いながらより良い解決策を見つけ出せるよう努力している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人や、その場所を忘れてしまわないように、日常の会話に取り入れ、関係が途切れてしまわないように支援に努めている。	○	なじみの場所など、利用者の思い入れのある地域への外出の機会を取り入れるよう努力していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士がこころよく関わり合える様、双方の間を取り持つようにしている。	○	散歩、レクリエーションなどを利用し、利用者同士が関わり合える時間を多くしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者が、現状ではない状態であるが、退所されていく利用者の状況把握は必要と思われる。	○	担当ケアマネージャー、サービス事業所職員との情報交換をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを多く持つ事により、より多くのニーズを引き出し、利用者本人の希望を受け入れられるよう努力している。	○	一人一人の思いを引き出し、本人本位に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートでできるだけ詳しく記載しているが、以後も本人や家族から続けて聞き取りが出来る機会を多く持ち、経過等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日常生活を日々観察、把握して情報を共有していくよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、在宅時の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所の方達からの情報を得て、介護計画を作成している。	○	利用者本人や家族と話し合う時間をもっと多くとれるよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを実施し、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族の協力を得ることの出来る利用者が多く、現状に即した新たな計画を作成することに取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のカルテ、業務日誌に様子を記載し、朝の申し送り時に報告、検討しながら情報を共有している。	○	個別のケース記録の書き方を統一するように取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独事業である為、多機能性を活かすことは出来ていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアによる慰問や、消防署協力による防火訓練、救命講習にとどまっている。	○	本人の意向や必要性に応じた支援が出来るよう努力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者本人や、家族との相談により、最も適していると思われるサービス利用ができるよう支援している。	○	他のケアマネジャーやサービス事業者とのネットワーク作りを行っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには、挨拶に何う程度である。	○	地域包括支援センターとの関わりのある利用者に対しては、助言を受けながら円滑な連携を持ってサービスを実践していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族等の希望を大切に、話し合いにより入居後の主治医を決定している。主治医との信頼関係を築き、スムーズな連携の確保に努め、適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医を主治医としている利用者がいない。利用者には認知症の専門医の紹介にとどまっている。	○	認知症に関しての様々な相談、指導を受けられるような専門医とのネットワークを作りたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と相談し、日常の健康管理や医療活動の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族や主治医との情報交換を密にし、担当者介護を開催して、利用者ができるだけ早期に退院できるような取り組みを行うように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後に利用者が重度化した場合や、終末期ケアのありかたについて、家族等との話し合いにより緊急時対応についての同意書に、充分理解していただいたうえで署名してもらっている。	○	全員で話し合い、方針を共有していけるように取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対して、グループホームでできる事やできない事を把握し、主治医と連携を取りながらチームとして支援に取り組んでいる。	○	重度化や終末期の利用者が、日々の生活をよりよく暮らせる為に、主治医や家族と共にチームとしての支援に取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際は、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を密に行い、利用者へのダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員自身が行う利用者に対しての声かけ、対応、行動には十分に注意を払い、個人情報の問い扱いに配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症のある利用者の、個人個人の理解できる能力に合わせた説明を行い、希望を表現できるように働きかけたり、自己決定が出来るように支援している。	○ 本人の思いや希望を引き出せるような支援が充実するよう取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で可能な限り、個々のペースで過ごしていただけるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は本人の望む店などがはっきりとある場合は、家族の協力を得て出かけてもらっている。希望のない方は訪問理美容を利用している。	○ その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、利用者の相談にのり、化粧品など必要な物の買い物に出かけたりしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、能力に応じて準備や片付けを行っている。職員の食事は職員が持参している。	○ 好みを引き出せるような支援を行い、食事が利用者にとって楽しみなものになるよう、可能な限り本人の嗜好に沿った食事を提供したいと思っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むものを、日常的に楽しめるように支援している。	○ タバコは喫煙スペースにて吸うようお願いすることを、全てのかたに納得してもらおうよう取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄のパターンを記録表を用いて把握するよう実施している。声かけやトイレ誘導、介助により失敗を防ぐ努力をしている。	○	家族の経済的負担を減らす為にも、パット、紙パンツの利用は可能な限り控えるよう努力している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備している。今まで就寝前に入浴する習慣の方がいることもあったが、十分に理解を求めた上で職員の勤務時間に合わせて協力してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、好きな時間に休憩、安眠できるよう環境づくりに取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や能力を活かした役割や楽しみを引き出し、可能な限り個別に対応できるよう努力している。	○	もめごとがおこらないよう役割分担を配慮して実施している。個別に喫茶店などに行き、気晴らしなどの支援ができるよう取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望ある方にはお金を所持したり、遣えるように支援している。希望時買い物と一緒にいき、自分で支払いをしてもらうよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人のその日の希望に沿って出かけることは難しいが、散歩などは個別に対応している。	○	一人一人の希望を取り入れ、戸外に出かけられるよう取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段からいかない場所に個別で出かけられる機会は殆ど無い。	○	外食など家族に呼びかけたことがあるが、協力は殆ど得られない。利用者が家族と一緒に外出できるような機会を増やしていくように支援を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった際などは、電話をかけたり、かけてもらったり、また手紙などは散歩を兼ねて職員とポストまで投函しに行ったりしている。		好みの便箋や封筒を買いに行くことも、利用者の楽しみになっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めず、いつでも都合のよい時間に訪問できるよう配慮している。会う場所もその時の状況で好きな場所できつろいでもらい、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	○	面会が少ない方には、面会に来ていただけるよう連絡を取り、出来るだけ多くの機会に来ていただけるように配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の項目を事務所に掲示して、職員全員が身体拘束の内容を理解して、防止できるように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目の届かない時間帯は、ホールの入り口、玄関に鍵をかけている。	○	目の行き届く時間帯は鍵をかけず、開放的な雰囲気作りができるように取り組んで生きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室入室時には、声をかける。居室の見回りをこまめに行い、入居者の安全確認、所在、様子を常に把握しているように努めている。	○	入居者の行動を常に把握し、不在の無いように常時確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜間、事務所に保管している。洗剤類も夜間はクローゼットに片付け、直接入居者の手に触れないように配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止のための勉強会を定期的開催していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	○	事例に基づいて、訓練や勉強会を開催できるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震、水害時の訓練を行っていない。地域運営推進会議にて地域の協力をお願いしている。	○	定期的に利用者と共に訓練を継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時に説明している。リスク対応が必要になった時点でも、家族に充分説明し、承諾してもらっている。	○	家族との話し合いの場を多く持ち、その内容を文章化して残していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施している。異変の発見に努め、発見の時点で医師、看護師に連絡し、指示を仰ぎ速やかな対応に結び付けている。	○	職員が異変を早期発見できるように勉強会を行っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の情報をファイルしている。服薬の方法も個人の身体状況に合わせ、見守りや一部介助などの支援を行っている。	○	各自カルテを見て勉強し、対応していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、水分量の調整、食べ物などの工夫、運動療法などで対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人一人に合わせた口腔内の清潔保持を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要なカロリー、水分摂取量を把握し、利用者にはバランスよく栄養を摂取してもらうよう努力しているが、好みの激しい方もいて、一人一人の摂取量にはばらつきがある。	○	栄養のバランスよく食事を摂ってもらうよう努力すると共に、常にだ脱水防止を心がけていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防、対応マニュアルを作成し、実行している。外出後のうがい、手洗いをを行う。トイレ後や食前の手洗いも行っている。インフルエンザは利用者全員予防接種をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒を防ぐ為、台所、調理器具等の衛生管理を行っている。(ハイター消毒)食材は毎日宅配を利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターを置いている。玄関周りを清潔にし、危険の無いように環境整備も行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不快な音や光が無いようにテレビのボリュームの調整、カーテンによる遮光などに気をつけている。テーブル、洗面台などに季節の花を生けたり、壁に季節にちなんだ貼り絵を飾り、季節感の演出に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、テーブル席があり、一人一人が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、なるべく以前から使用していた物を持参していただいている。配置も本人が居心地良く過ごせるように配慮していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	巡回時に喚起、温度調整をこまめに行っている。軽い臭いなどには防臭剤を使用している。	○	放尿、失禁などによる臭いが、掃除したあともなかなかとれないことがある。臭いが消えるまでの間などは防臭対策が必要と思われる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーになっており、手すりも取り付けられている。利用者の身体状況によっては居室内にも手すりを取り付けしている。	○	浴室の利用時、利用者によっては下肢筋力の低下により、浴槽への出入りが危険な場合も見られ、手すりの設置、数などを検討し、改善していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防ぐよう、気配りや目配りをして安全確保には充分配慮しながら、利用者本人が自立して暮らせるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに植木、プランターを置き、入居者と一緒に水やり、手入れを楽しんでいる。裏庭には畑も作り、作物の成長、収穫を楽しんでいる。	○	野菜などの畑作りは利用者や職員に負担が生じてきており、花畑への変更も考えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の今までどおりの生活を大切に、入所による不安や混乱を最小限にとどめることができるよう、個々のニーズに合った対応、サービスを、職員全員が一体となり、努力し、実践しています。入居者、家族共に安心して生活していただけるようニーズを傾聴し、受容、共感の気持ちで一人一人の利用者に優しく接しています。協力医療機関との連携をはかり、健康管理にも気を配っています。